平成28年度

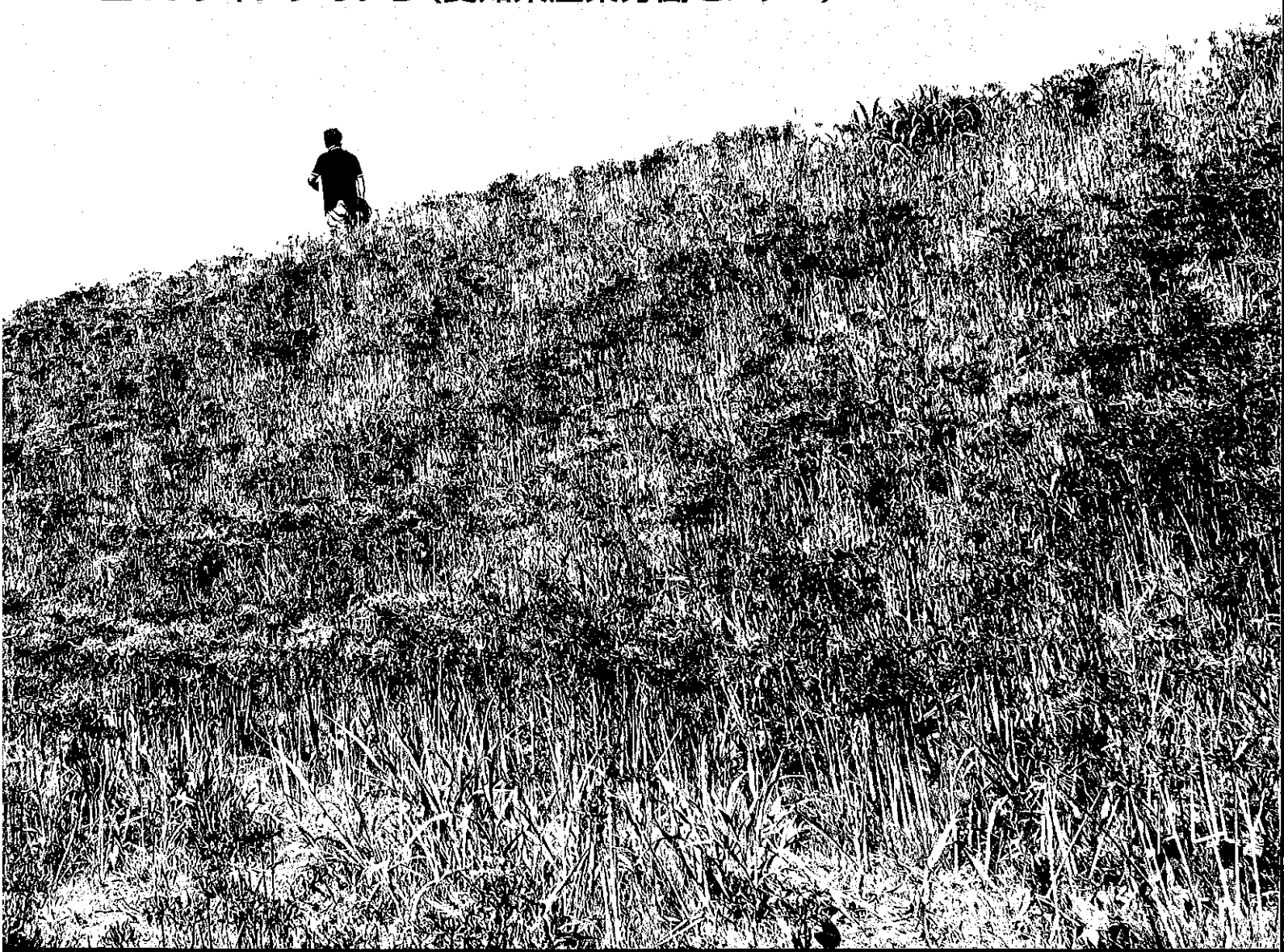
第54回　東海北陸地方放送教育研究大会
第48回　愛知県放送教育特別研究会

大会テーマ

未来を拓く
学びの場を創造しよう

日　時　平成28年　8月23日（火）10時～16時

会　場　ウインクあいち（愛知県産業労働センター）



主　催　東海北陸地方放送教育研究協議会・愛知県視聴覚教育研究協議会・全国放送教育研究会連盟・NHK名古屋放送局

共　催　NHKサービスセンター

後　援　文部科学省・厚生労働省・内閣府・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・愛知県教育振興会・名古屋市教育会

部 会 研 究 役 員 一 覧

	部会名	司会者	助言者	提案者	記録・運営
幼稚園・保育園・小学校	①感じる心を育てる部会	愛幼視 明照保育園 中島　章裕	岐阜県 中部学院大学短期大学 幼児教育学科　教授 杉山　祐子 講　師 立命館大学 教育開発推進機構 教授 陰山　英男	岐阜県 大垣市立荒崎幼保園 長澤　弘子	愛幼視 名古屋市立 楠西幼稚園 沖　壽美代
小中学校	②デジタルコンテンツ活用部会	三　河 豊川市立東部小学校 坂田　貴仙	三　河 安城市立祥南小学校 石原　崇	三　河 岡崎市立東海中学校 近藤　雄一 名古屋 名古屋市立緑小学校 園木　裕貴 尾　張 知多市立岡田小学校 長谷川拓也	三　河 豊橋市立 岩田小学校 上田　康司
全校種	③情報モラル研究部会（小中提案）	尾　張 半田市立 岩滑小学校 丹波　信夫	尾　張 北名古屋市五条小学校 木村美和子 石川県 金沢市立新竪町小学校 河村　真吾	名古屋 名古屋市立 稲葉地小学校 小川　拓也 三　河 蒲郡市立形原中学校 堀内　智晴 尾　張 稲沢市立稲沢中学校 佐藤　武司 石川県 金沢市立大浦小学校 稲田　一哉	尾　張 一宮市立 朝日西小学校 川本　哲也 尾　張 稲沢市立 明治中学校 和田　康助
高等学校	④メディア研究部会	高視協 中京大学附属 中京高等学校 脇田　俊幸	福井県 福井県教育庁高校教育課 指導主事 松村　剛 高視協 愛知県総合教育センター 情報システム研究室 研究指導主事 川畑　俊晴	福井県 福井県立大野高等学校 阪井　幸人 高視協 愛知県立蒲郡高等学校 伊藤　純一	高視協 愛知県立 知多翔洋高等学校 久田　信彦

「豊かな子どもの育ちへの視聴覚教材の効果的活用について」

～ザリガニ飼育に見る直接体験と間接体験より～

大垣市立荒崎幼保園
長澤　弘子

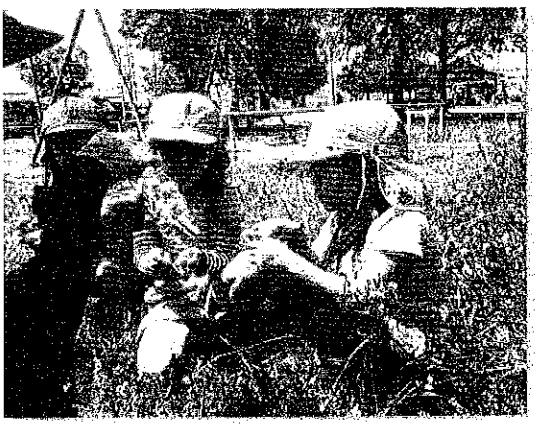
1．はじめに

高度情報化社会といわれる現代。子ども達は、各種メディアからの情報に日々さらされている。スマートフォンでゲームをする子どもはもとより、幼保園の園庭で子どもを遊ばせる保護者の片手には携帯電話があり、視線はそちらに向いている・・・そんな光景は珍しくなくなった。人間関係の希薄化、生活体験、自然体験の不足、心身の健康に対する悪影響、情報化など、子どもたちの将来を思うと、マイナス面ばかりが保育者の不安をかき立てている。２０１５年、大垣市では全園にiPadが導入された。どう取り入れればいいのだろう？生まれた時から情報機器に囲まれて育っているこの子たちに、園での拍車をかけるような取り組みは果たして必要なのだろうか？と疑問や抵抗を感じた。

そこに今回、放送研の提案者の話をいただいた。将来の社会を担う子どもたちに、直接体験を通して様々な力を身につけていく幼児期において、何が大切なのか、再度テレビやiPadの活用を考え直す機会が得られた。その結果、かかわる大人側がメディア情報を適宜適切に提供できるメディア・リテラシー（情報活用能力）を身に付けることが最も重要という考えに至った。ITに対する子どもの感覚が、保育者の遥か先を行く現状の中で、今こそ保育者の判断力が試されているのかもしれない。研究の機会をいただいたことを契機に、保育者がこれまで培ってきた直接体験への価値感を生かし、以下の実践により、視聴覚教材の有効利用の仕方を探った。

2．実践の設定

ある日、捕まえたザリガニで遊んでいたときのこと。タライの隅にいるザリガニを持ってみたいけど怖い・・・。背中をちょっと触るがはさみを振り上げる。ひげを持ってみようとするがうまくいかない。「背中持てばいいんや」「そぉっとやるとびっくりしないよ」と、困った時やもっと知りたいときの行動として、図鑑を見たり、友達同士で考えたり・・・。こんな一場面にも幼児の保育・教育の目的である“生活や遊び”を介した人とかかわる力や思考力、感性や表現する力の育み”を見ることができる。本来の子どもの姿として直接体験が重要であることは言うまでもないが、視聴覚教材などの間接体験も補完している。



研究構想

【研究主題】
豊かな子どもの育ちへの視聴覚教材の効果的活用について

【願う姿】

身近な動植物や自然に親しみを持ち、友だちと一緒に世話をしていく中で、気付いたことや発見したことを遊びや生活の中で表現して楽しめる子

【研究仮説】

自ら環境にかかわる直接体験を充分に積み重ねたことで、興味や関心が芽生える。この機会を捉えて、視聴覚教材（ＴＶ、iPad）を加えることで、さらに好奇心や探究心が高まる。また、飼育物に親しみを持って大切に育て、経験したことを遊びや生活に取り入れ、豊かな表現力を育むことができるだろう。

【手立て】～間接体験の取り入れ～

①絵本や図鑑を活用し興味、関心を高める。
②テレビ視聴を活用することで生き物の生態を知り、身近に感じる。
③友だちと一緒に iPad を活用した共同学習をし、好奇心や探究心を高める。

【実践の流れ】	内容
1. 身近な自然に触れる。	・ザリガニを獲りに行き、飼育を通して実体験を十分に積み重ねていく。
2. 保育者と一緒に図鑑を活用する	・図鑑を通して、ザリガニについて知り、水を換えることや餌やりなどの世話することが分かる。
3. 子ども達から図鑑を活用する。	・絵本や図鑑を使って、子ども達の発見や疑問を解決する。
4. テレビ視聴をする。	・テレビ視聴することで、今まで見られなかったものが見られる喜びを感じる。
5. テレビを再視聴する。	・「もう一度見てみたい」今までの確認をする。
6. IPad を活用する。	・ザリガニの赤ちゃんを撮影し、自分の興味や関心に合わせて、拡大して見る。

【体験したことを遊びや生活に取り入れる】